

関西学院における男女共同参画推進のとりくみ

関西学院大学は 2010 年度から 2012 年度まで文部科学省の「女性研究者支援モデル育成事業」に採択され、大学における男女共同参画をめざし、様々な施策に取り組みました。理工系の女性研究者の増加を図り、大学を活性化することを目標とした本事業では、理工学部を中心とした様々な取り組みが行われ、2 年目には文系学部にも拡大されました。

その結果、事業終了時には学長（当時）による男女共同参画宣言が発せられ、新たに学院全体の男女共同参画を推進していくことを決定し、2013 年 4 月から学校法人関西学院のもとに男女共同参画推進本部が設置されました。

取組事業のうち、出産・育児期の女性教員に研究支援要員を配置するピンチヒッター制度については現在も継続して実施しています。

男女共同参画推進本部を設置したことの意味は大きく、文部科学省の「女性研究者支援モデル育成事業」からスタートした各制度が、関西学院の中で、維持・発展をしていくベースとなっています。

このような現状を踏まえ、3 年間の「女性研究者支援モデル育成事業」によって関西学院に芽を吹いた男女共同参画事業をしっかりと育てていく体制をつくり拡大していくことが重要であると考えています。

【取組内容と主な成果】

1. 出産・育児支援

①ピンチヒッター制度：育児期の女性研究者のために研究補助を行う支援員を配置している。博士研究員や RA に対しても支援員を配置可能としている。2010-2011 年度は理工学部で運用し、女性研究者を支援した。2012 年度は全学部の女性専任教員を対象を拡げた。2013 年度以降は、新たに設置された男女共同参画推進本部のもとで、制度を継続実施しており、制度を利用する女性研究者も、支援員も増加傾向にある。

②育児スペース：授乳や搾乳、子どもの食事やオムツ交換、出産・育児期の女性の休息にも利用可能な育児スペースを理工学部内に併設し運営している。

⇒ 利用者・支援者とも受賞、研究機関への就職、博士号取得などの成果がみられる。

2. 研究環境整備

①女性専用仮眠室：夜間に使用可能な女性研究者専用の仮眠室（2 床）を開設し運営。

②意識改革：学内の意識改革も重要な環境整備と位置付け、全学および主に関西圏の私立大学の男女共同参画の意識醸成をめざして毎年フォーラムを開催している。2014 年度については、民間企業からの女性役職者を招き、パネルディスカッションを行うと同時に、兵庫労働局からもパネラーに加わっていただくことで、意識改革を推進した。

③広報：学内ニュースの発行。ホームページの開設。

⇒ 前学長、理工学部長、関西四私学学長共同、全 3 種類の男女共同参画宣言

3. 理工学部によるポジティブアクション

①教員や研究スタッフの募集要項に「男女共同参画を推進している」旨の文言記載。

②女性優先ポスト卒の創設（2014 年度採用から）。

③女子大学院生・女性ポスト等限定研究奨励賞（山田晴河記念賞）。

④理工学部長の男女共同参画宣言。

⑤2015 年度設置予定の 3 つの新学科それぞれに少なくとも 1 名の女性教員採用を努力目標。

【2014 年度の状況】

① 法人のもとに設置された男女共同推進本部が学院全体の男女共同参画を推進している。

② ピンチヒッター制度を継続して運用している。

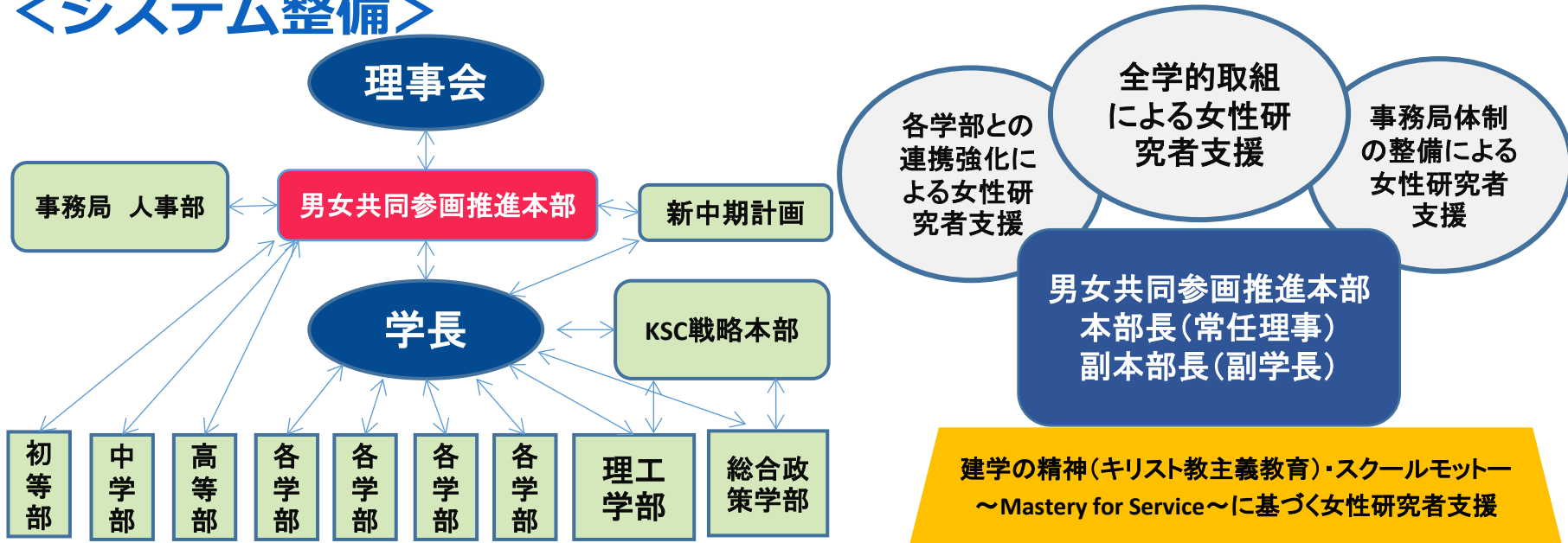
【連絡先】 関西学院大学 男女共同参画推進本部 （事務局：人事部人事課）

TEL：0798-54-6008 FAX：0798-51-0428

E-mail：danjokyodo-kg@kwansei.ac.jp URL：<http://www.kwansei.ac.jp/gender/>

女性研究者支援のための基盤整備の状況について（関西学院）

<システム整備>



<女性研究者支援施策>

女性研究者支援モデル育成事業
H22~H24

研究活動支援

- 女性研究者研究活動支援者（ピンチヒッター）制度
- ベビーシッター制度
- 休日授業実施の際の一時託児制度

男女共同参画に関する啓発活動

- フォーラムの開催
- 定期刊行物の発行
- 活動報告書の発行
- インクルーシブコミュニケーション構築の取組

研究力増強支援

- ピンチヒッターの量の確保による研究の継続
- 支援者の育成・教育による支援の質の向上

ポジティブアクション

- 理工学部における女性教員の積極採用
- ピンチヒッターによる女性研究者の積極的支援
- 次世代育成行動計画